

A close-up photograph of a hand holding a tablet computer. The hand is positioned on the left side of the frame, with fingers gripping the edge of the device. The tablet screen is visible, showing a colorful, abstract pattern. The background is dark and out of focus.

青年期(高等部)の発達障がい児へのICT機器
による支援について

福井県立福井東特別支援学校

NPO法人 支援機器普及促進協会

理事長 高松 崇

自己紹介

主な活動と経歴

●本年度

京都市教育委員会 総合育成支援課 専門主事

京都府 特別支援教育京都府専門家チーム(宇治支援学校SSC)

NPO 支援機器普及促進協会 理事長

●昨年度以前

京都市 呉竹総合支援学校・東総合支援学校 特別非常勤講師

京都市 携帯電話市民インストラクター

京都市 ICT活用支援員 (総合支援学校ICTコーディネーター)

京都市 総合育成支援員 (発達障害児支援)

京都市 精神障害者授産施設 京都市朱雀工房 統括職業生活支援員

京都市 地域若者サポーター (引きこもり支援)

京都府教育委員会 社会教育委員

京都府高等技術専門校 在職者訓練インストラクター

中小企業基盤整備機構 経営改善アドバイザー

私も、京都府立向日が丘支援学校 高等部2年生の三男がおります

18番テトラソミー

140,000人に一人という非常に出生率の低い染色体異常（18番染色体が4本ある病気です）の我が子と同じ障害のある方々との情報交換の場になってほしいと思いつくりしました

18テトラソミーの子の成長

140,000人に一人という非常に出生率の低い染色体異常（18番染色体が4本ある病気です）の我が子と同じ障害を持つ方々との情報交換の場になってほしいと思いつくりしました

2014-12-27 13:54:33

テーマ：成長記録

12月7日にはお母さんと一緒に
SL北びわこ号（米原から木ノ本）にも乗ってきました
梅小路機関車館のSLとは違い、40分の自然の中を走ったそうです

プロフィール



プロフィール | なう | ピダの部屋

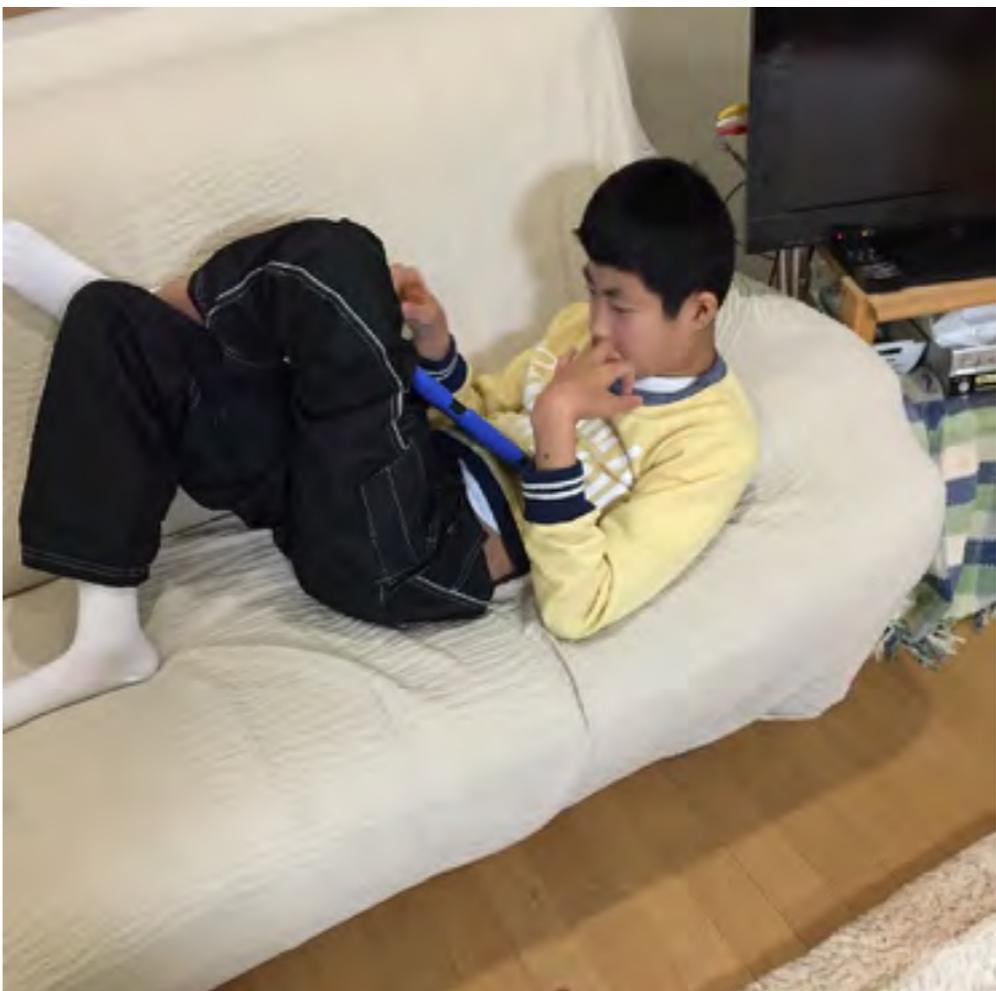
ニックネーム：menis18

性別：たかちゃん

自己紹介：

18番テトラソミーという遺伝子障害は非常に



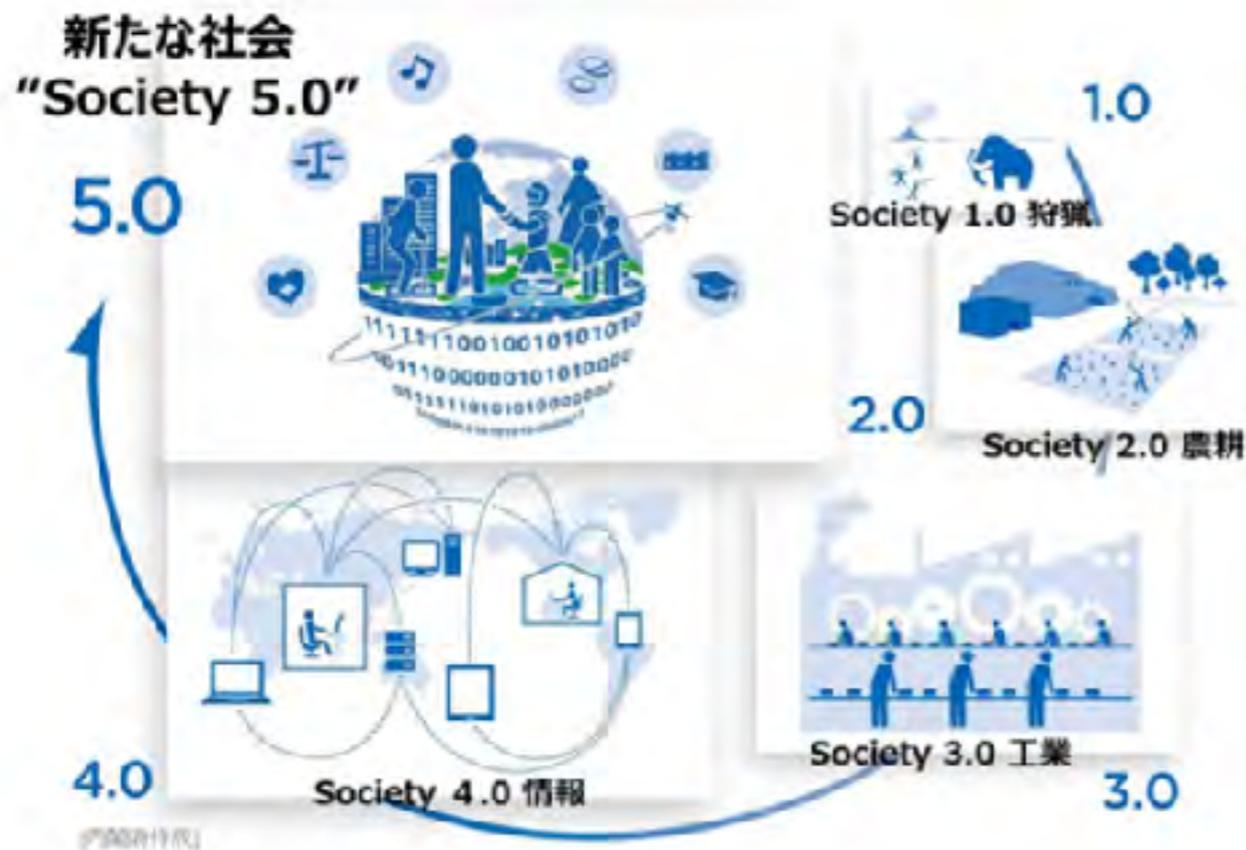


Chapter 1
Society5.0
GIGAスクール
って何?!

Society5.0(ソサエティ5.0)未来の日本の姿

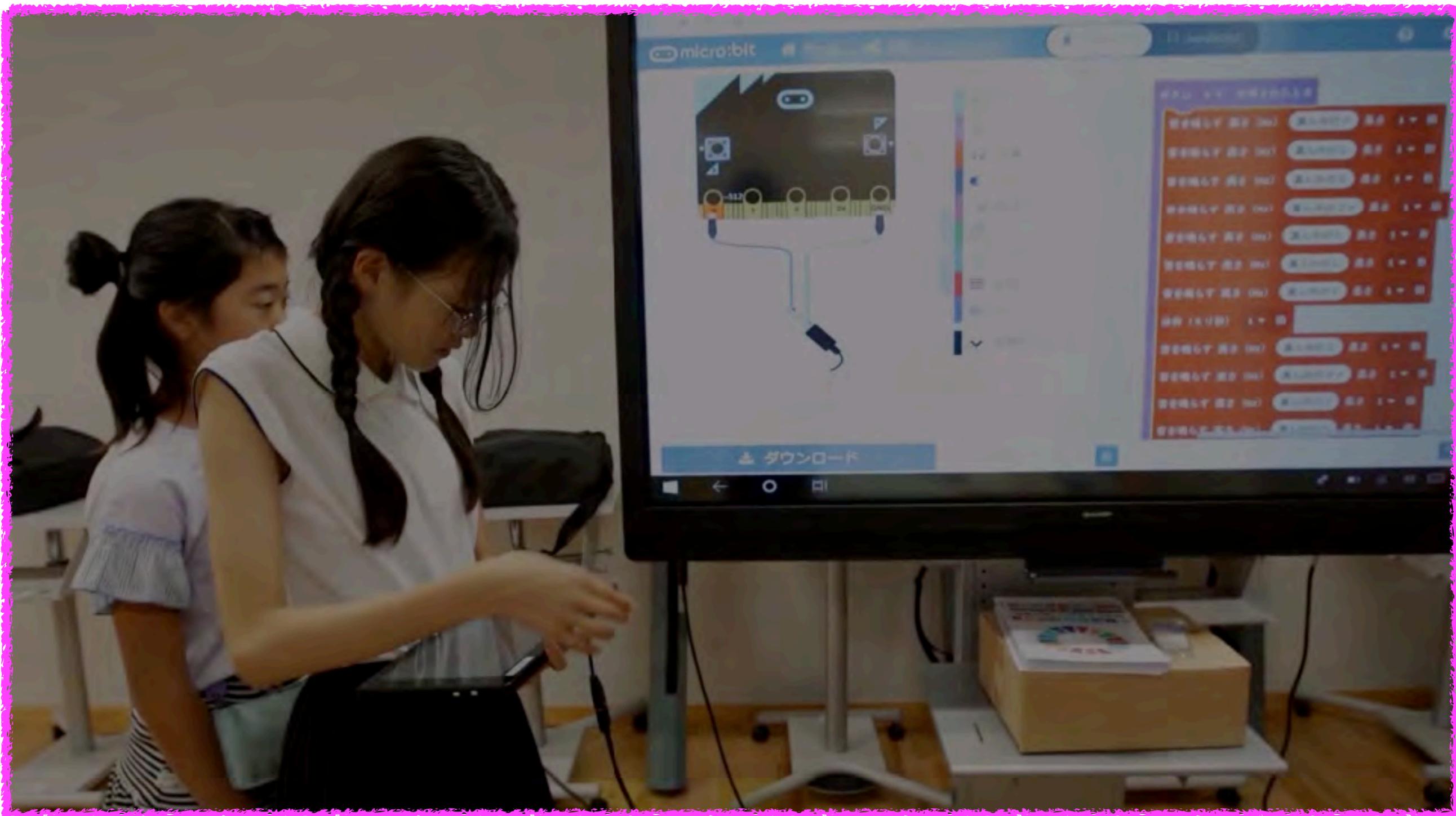
学校現場って
Society ?????

新たな社会(Society 5.0)って?!



- 狩猟社会(Society 1.0)
- 農耕社会(Society 2.0)
- 工業社会(Society 3.0)
- 情報社会(Society 4.0)

「学校における1人1台端末環境」 公式プロモーション動画



地域 > 東京 > 記事

2020年08月15日

新聞宅配申し込み

デジタル申し込み

おすすめ 694

ツイート

BI O

印刷

メール

大阪ダブル選、動画で解説

維新の2氏が勝利。動画で徹底解説します。



注目の有料ニュース

デジタル限定

1食あたり
568円(税込)

頼めば
頼むだけ
お得に!

nosh.com

西田の輝く教育

インタビュー（10）井上賞子さん

◆松江市立意東小学校教諭



井上賞子さん

拡大

「この子、できるくせにやらないんです」――。先生たちからこんな悩みを聞きます。本当ですか。「できる」を疑ってください。

かつて、授業中に好きな本ばかり読んでいる子がいました。試験は高得点。ところが中学は勉強でつまずき、読むことに困難があるとわかりました。文章を読む時に一部しか認知できないから、同じ本を何度も読んでいた。理解力が高いので小学校は推測で解答できたけれど、中学はそうはいかなかった。でも音声読み上げを使ったらず

っと入っていきました。「できる」と思いこまれて、支援がスタートしなかったんです。

逆に「できないから参加しないのでは」という言葉も聞きます。この「できない」も、疑ってください。

算数の問題をやらせようとする、教室を飛び出す子がいました。担任からは「四

注目情報



わが家、意外と高いかも？

適正価格がわかるく不動産査定で自宅の価格を【無料】チェック！



「オンライン接客」の秘訣

コロナ禍に昨年対比プラスの売上高い支持を集める地方企業に迫る

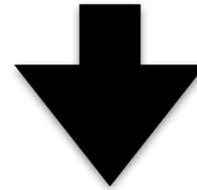


50代から考えたい相続

相続の準備を今から始める

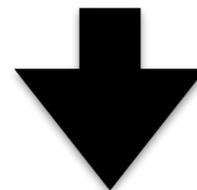
目の前の子が学習の壁を乗り越えるには何が課題で、何が必要か。
アセスメントをしっかりととして、いろいろな**選択肢を示す**ことが、教師
に求められているのではないのでしょうか。

「この子、できるくせにやらないんです」——。
先生たちからこんな悩みを聞きます。本当ですか。
「できる」を疑ってください。



「できる」と思いこまれて、支援がスタートしなかったんです。

逆に「できないから参加しないのでは」という言葉も
聞きます。この「できない」も、疑ってください。



「能力的な問題」と思われたことで支援方法が検討されなかったんです。

思い込みではなく、「この方法ならできる」という手立てを一緒に探し、伴走し、課題解決できる体験を繰り返させ、「その子の学び方」を手渡すことこそが教師の役割です。

その際に一番大切なのは、その子自身の「自分の学び方」への誇りと納得。「劣っているから人と違う方法ではなく、自分の力を発揮するためにこの方法が必要だ」と思えることが重要です。

国のGIGAスクール構想で、端末配備が「1人1台」になる時代も近づいています。読み書きなどに困難のある子には、どの学校でも、どの子でも、ICT(情報通信技術)という手立てが使える環境が整うことは朗報です。

よく端末を眼鏡にたとえ「眼鏡のように使えれば」といわれてきました。でも本当に大切なのは、その子にあった眼鏡にする調整です。端末も、渡せば全て解決する道具ではありません。

Teamsでクラスの数名と
同時につなげて行う教育の意義

GIGAスクール構想の加速による学びの保障

令和2年度補正予算額（案）2,292億円



目的

「1人1台端末」の早期実現や、家庭でも繋がる通信環境の整備など、「GIGAスクール構想」におけるハード・ソフト・人材を一体とした整備を加速することで、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子供たちの学びを保障できる環境を早急に実現

児童生徒の端末整備支援

○ 「1人1台端末」の早期実現 1,951億円

令和5年度に達成するとされている端末整備の前倒しを支援、令和元年度補正措置済（小5,6、中1）に加え、残りの中2,3、小1～4すべてを措置

対象：国・公・私立の小・中・特支等
国公立：定額（上限4.5万円）、私立：1/2（上限4.5万円）

○ 障害のある児童生徒のための入出力支援装置整備 11億円

視覚や聴覚、身体等に障害のある児童生徒が、端末の使用にあたって必要となる障害に対応した入出力支援装置の整備を支援

対象：国・公・私立の小・中・特支等
国立、公立：定額、私立：1/2

学校ネットワーク環境の全校整備 71億円

整備が可能となる未光地域やWi-Fi整備を希望し、令和元年度補正に計上していなかった学校ネットワーク環境の整備を支援

対象：公立の小・中・特支、高等学校等
公立：1/2

GIGAスクールサポーターの配置 105億円

急速な学校ICT化を進める自治体等を支援するため、ICT関係企業OBなどICT技術者の配置経費を支援

対象：国・公・私立の小・中・高校・特支等
国立：定額、公私立：1/2

緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備

○ 家庭学習のための通信機器整備支援 147億円

Wi-Fi環境が整っていない家庭に対する貸与等を目的として自治体が行う、LTE通信環境（モバイルルータ）の整備を支援

対象：国・公・私立の小・中・特支等、年収400万円未満（約147万台）
国公立：定額（上限1万円）、私立：1/2（上限1万円）

○ 学校からの遠隔学習機能の強化 6億円

臨時休業等の緊急時に学校と児童生徒がやりとりを円滑に行うため、学校側が使用するカメラやマイクなどの通信装置等の整備を支援

対象：国・公・私立の小・中・高校・特支等
公私立：1/2（上限3.5万円）、国立：定額（上限3.5万円）

○ 「学びの保障」オンライン学習システムの導入 1億円

学校や家庭において端末を用いて学習・アセスメントが可能なプラットフォームの導入に向けた調査研究

施策の想定スキーム図



※上記は公立及び私立のイメージ、国立は国が直接補助

遠隔授業を支えるプラットフォーム ハード

	起動/ シャットダウン	価格	動作	バッテリー	持ち運び
iPad+ SmartKeyboard	◎	○	◎	◎	◎
Chromebook	○	◎	○	○	○
Windowsタブレッ ト	×	×	△	△	○

遠隔授業を支えるプラットフォーム クラウドサービス

G suite で利用できるもの

Google classroom

Google hangouts chat

Google hangouts meet

Google calendar

Gmail

Google drive

Google document

Google forms

Google spreadsheets

Google slides

Office 365 で利用できるもの

Microsoft teams

Outlook

Onedrive

Word

OneNote

Microsoft forms

Excel

PowerPoint

遠隔授業を支えるプラットフォーム

各Web会議ツールの詳細機能を比較

	 LINE	 Messenger (Rooms)	 Skype (Meet Now)	 Zoom	 Webex Meetings	 Whereby	 Google Meet	 Microsoft Teams
最大参加可能人数	200人	50人	50人	100人	100人	4人	100人	300人
ゲストのログイン	要	不要	不要	不要	不要	不要	要*	要*
ブラウザのみで参加	×	○	○	○	○	○ ^{※1}	○ ^{※1}	○
URLの事前発行	×	○	○	○	○	○	○	○
カレンダー連携 ^{※2}	×	×	×	Outlook/Google	Outlook/Google	Google	Outlook/Google	Outlook/Google
チャット	○	× ^{※3}	○	○	○	○	○	○
挙手/リアクション	×	×	○	○	○	○	× ^{※2}	○
画面共有	○	○	○	○	○	○	○	○
ホワイトボード	×	×	×	○	○	×	×	○
投票	○	×	○	×*	○	×	×	○
録音・録画	×	×	○	○	○	○	×*	×*
仮想背景/背景ぼかし	○	×	○	○	×	×	×	○
PCでの最大画面表示数	16人	25人	9人	25人	25人	4人	16人 ^{※2}	9人
スマホでの最大画面表示数	6人	8人	4人	4人	2人 ^{※4}	4人	5人	4人
その他、無料版の制限	なし	なし	なし	3人以上参加時、40分の利用制限	50分の利用制限	有料版では12～50人が参加可能	60分の利用制限 ※5	ストレージ容量など

● 2020年6月30日時点の情報。OSによって機能や仕様に制限が出る場合がある。

※2 一部、拡張機能で追加可能。

※3 メッセンジャー自体では利用可能。

★ 有料版で利用可能。

※4 iPhoneでは4人。

※1 ブラウザーで全機能利用可能。

※5 9月末までは制限なし。

アクティブラーニング(反転授業) 主体的で深い学び

時間と場所を超える授業

オンライン(時間内)は、
課題提示とまとめ(集約)の場

オフライン(時間外)は、
自己学習(課題作成)の場

つなげた状態で、
何をどう使えば、
どんなことを教えることができるか

「カリキュラム」のつくり替え

「家から」「オンラインで」参加する“よさ”を引き出せるワークショップにしなければ、質の下がった代替にしかないからです。

きちんと日常の中に溶け込めるワークショップをデザインしようと考えました。家の中にある身近なものを活用し、ワークショップ後もそのまま試行錯誤を続けられるようなワークショップです。

ワークショップの前後の時間も含め設計をすることで、「探求」が続くカリキュラムにしました。

メリットは、親子のコミュニケーションが生まれること、デメリットは親の負担が生じることです。

「日常の見方が変わる」「日常の中で探求が育まれる」「親子コミュニケーションが生まれる」、そしてもう1点付け加えるならば「さまざまな場所からの参加者がいるメリットを活かす」ことを大事にした、オンラインワークショップ

「運営」のつくり替え

オンラインでは60分が限界です(対面のワークショップは120分)。60分でも、連続は難しい。しかし、「10秒間、目をつむってみる」といった一息つく時間を設けることで、気持ち切り替わります。

すべての子どもたちとの双方向のコミュニケーションを設計する必要があります。そうすると、1つのオンラインの部屋に、10名以上は厳しいことがわかりました。そして、1部屋にファシリテーターは2名必要です。進行をする講師役と、子どもたち全員の様子を観察して、適宜声をかける伴走役。伴走役のファシリテーターが、機材対応もつとめる体制で実施しました。

「仮想背景の利用までをインストラクションに入れてほしい」という声がありました。オンラインワークショップを実施すると、家庭の様子が丸見えです。仮想背景の導入は必須だと感じます。

「ファシリテーション」のつくり替え

オンラインでは、対面と違い、身体的に寄り添うことができません。空間の隔たりのぶん、気持ちの隔たりも生まれるのも事実です。伴走役のファシリテーターが、常に全員に気を配ることが大事です。そして、必ず名前呼びかけすることも、リアルなワークショップ以上に大事です。

その一方で、オンラインという存在がファシリテーションなしで議論を活発化させる効果があることも実感しました。それは大学の授業も同様です。とにかくたくさん質問・意見が出ます。

保護者からも「初対面だと話せないのにたくさん質問できた」「以前なら恥ずかしがって、親に質問させていたが、(オンライン)ワークショップでは質問や発言ができ、自信になったようだ」といった声が届きました。

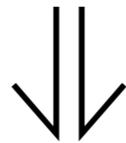
双方向でアウトプットができる機会を増やす

「家族以外のコミュニケーションが少なくなっていたので気分転換になった」「読書や家庭学習、動画配信など、一方通行のインプットが増えてしまっているので、今回のように双方向でアウトプットができる機会が増えるとありがたい」といった声は、今回のオンラインワークショップの狙い通りです。

これから一番力をいれていくのがSTEAM。リアルな場とオンラインを
いったりきたりしながら、自分でテーマを決めて創作に取り組むオンラインSTEAMラボを開始します。

時間と場所を超える授業

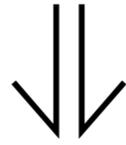
リアルな授業を遠隔で
どう実現するかではなく



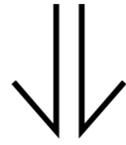
遠隔だからこと
できる事を考える

生徒に指導すべき
ICTスキルとは何か
それは全ての教師で教え合うという
ことの周知徹底

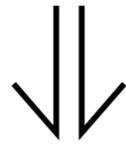
教員が制御しようとししない



児童・生徒に選択権を与える



主体的で深い学び



遠隔授業で対話を目指す

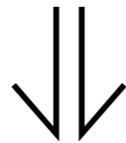
保護者に求める
ICTスキルとは何か

ペアレンタルコントロール
(ネット被害から子どもたちを
守ることは親の責任)

家庭での約束の徹底(家庭教育)

全ての教師に求められる
ICTスキルとは何か

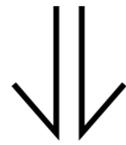
制御しようとしないう事
(今の子どもたちには勝てません)



子どもたちの主体性を育む

Society5.0を意識すること

自分の育った時代とは違う



必要なスキルは変わっている

子どもたちに選択肢を提示できる
引き出しの数

教育の在り方の大きな転換の
周知徹底

Society5.0を意識すること

自分の育った時代とは違う

STEAM教育

Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)を統合的に学習する「STEM教育(ステムきょういく)」に、さらにArts(リベラルアーツまたは芸術)を統合する教育手法

生徒児童の数学的、科学的な基礎を育成しながら、彼らが批判的に考え(批判的思考)、技術や工学を応用して、想像的・創造的なアプローチで、現実社会に存在する問題に取り組むように指導する。またSTEAM教育の具体的な手法としては、デザインの原則を活用したり、創造的な問題解決を奨励することなどが挙げられる。



子どもたちに求められるのは「変化に対応する力」

OECDは、今の時代を「VUCA (Volatility『不安定』, Uncertainty『不確実』, Complexity『複雑』, Ambiguity『曖昧』)」の時代と表現し、その時代において必要とされるコンピテンシーとして「変革を起こす力」を掲げています。

私は、予測できない未来を生きる子どもたちに求められるのは「変化に対応する力」だと考えます。それは、答えが決まった提示される問題を効率的に解く力だけではなく、大量の情報の中から必要な情報を取捨選択し、自ら課題を設計する力、生涯に渡り学習し続ける力であると言えます。

そして、その変革をもたらすのは言うまでもなく科学技術です。技術革新は社会を大きく変革させると同時に、雇用環境の変化ももたらします。ニューヨーク市立大学のキャシー・デビッドソン氏は、「子どもたち65%は将来、今は存在していない職業に就く」とし、オックスフォード大学のマイケル・オズボーン氏が発表した論文「雇用の未来」では、コンピュータによる自動化が進み、約半数の仕事が機械に代替されると予測されています。

科学技術の発展は社会や経済発展の原動力

現に、私たちはすでに、AI、ロボット、ドローン、ビッグデータ、フィンテック、エデュテック、アグリテックなどSTEM（Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）の頭文字をとった言葉）に囲まれて生きています。

すべての産業領域においてSTEM関連知識が必要とされるのです。そういった観点からSTEMの力は今まで以上に重要となると言えるでしょう。

科学技術の発展は、社会および経済発展の原動力であり、高度科学技術人材の育成と、すべての国民の基本的STEMリテラシーの向上は急務なのです。

マルチプル・インテリジェンス

子育てや教育現場でも有効 「個性」に適した学習アプローチ
ハーバード大学教育学大学院教授で、心理学の世界的権威であるハーワード・ガードナー教授が、授業や研修での座学といった一般的なものにとらわれない、学習法を提唱しています。これが「個性」に適した学習アプローチです。

ハーワード教授は、従来のIQテストに異議を唱え、人にはいくつもの多重な「知能MI（マルチプル・インテリジェンス）」があると主張しました。MI理論によると、人間は普段「8つの能力」を働かせて生活しているといっています。これらの中でも特に秀でている部分や得意分野があり、8つの能力を見極め、個性に適したアプローチで学習をすると、人は才能を大幅に伸ばすことができるといっています。

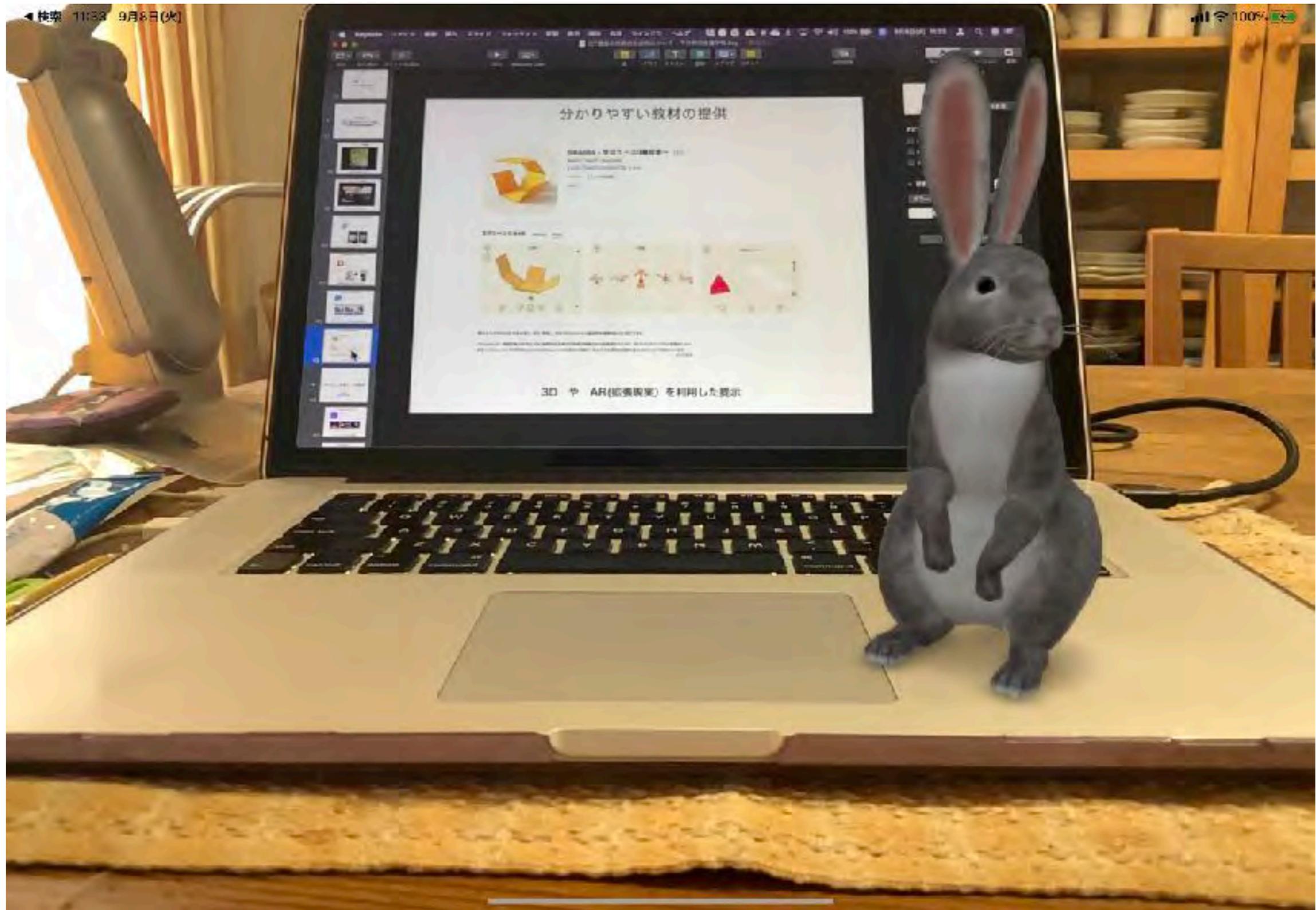
ハーワード・ガードナー教授が提唱する8つの知能MI

- | | | |
|---|-----------------------|----------------------------|
|  | 言語能力 | 話し言葉、書き言葉への理解力や感受性が高い |
|  | 論理的
数学的能力 | 論理的思考。数が規則性、予測が得意 |
|  | 空間能力 | 絵画が得意。視覚的・空間的なクリエイティビティがある |
|  | 身体・
運動能力 | 運動能力が高い。身体を自由にコントロールできる |
|  | 音感能力 | リズム感・音感が優れている。音楽への感受性が高い |
|  | 人間関係
形成能力 | 人との関わり合いが好き。グループワークが得意 |
|  | 自己観察・
管理能力 | 自立心・決断力がある。独自のやり方を見出す |
|  | 自然との
共生能力 | 環境・自然・動物に関心が高い。アウトドアが好き |

バーチャル修学旅行の作り方～GoogleEarthプレゼンテーション機能～



Chrome + 画面収録



3D や AR(拡張現実) を利用した提示







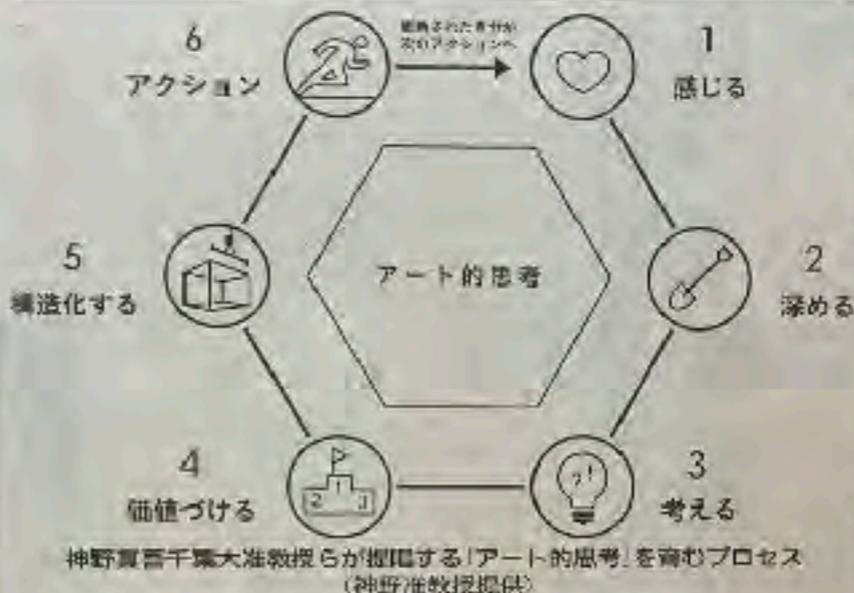
注意
ちゅう い

教育

Education

美術を高尚な趣味のように「とっつきにくい」と感じる人は少なくない。だが美術には、生涯にわたり気付きを与えてくれる可能性があるという。学びに生かすには、どうすればいいのか。創作を重視する美術教育の在り方に疑問を呈する神野真吾千葉大准教授に聞いた。

現代社会で生かす 美術



神野真吾千葉大准教授

じんの・しんご 1967年神奈川県生まれ。専門は芸術学。東京芸術大学大学院修士課程修了。アートに社会的価値を追求し、実践的に研究。山梨県立美術館学芸員を経て千葉大准教授。鳥川武蔵野ミュージアムのアドバイザー・ボードメンバー。



神野真吾千葉大准教授に聞く

「ものの見方を養えられることが、美術の大きな価値の一つです」。多様な文化や考え方があふり合う現代社会で、その学びを応用できる数秘であるにもかかわらず、このように価値が教育現場で十分浸透していかない。神野准教授は語る。

学校で学ぶ美術は毎年、色彩や造形が重視され、「上手な」作品を作らせることが目的とされてきたといわれる。「先生にセンスがいい」と言われた子ども以外は、美術を自分には関係ないものと思っ

新たな価値見いだす武器に

創作偏重から転換 鑑賞し批評、多様な解釈育む

7割「好き」も「役立つ」は4割弱 中学生調査

学校教育の現場でも、美術を知識や技能の学習にとどめず、生活や社会の中で生かす力を身に付けることを重視する方向にかじを切りつつある。

国立教育政策研究所が2013年度に中学生を対象に行った調査では、美術の学習が好きかという設問に対し、生徒の70.9%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた。一方で「美術の学習をすれば、普段の生活や社会に出て役立つ」と考えるかにつ

いては「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という肯定的な回答は39.8%にとどまった。

約10年に1度改定の新学習指導要領が小学校で本年度から、中学校では21年度から全面実施。その柱は「主体的・対話的で深い学び」の実現だ。

中学校の美術科では、作品の定まった価値の学習ではなく、対話などを通じ、生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方、考え方を深めることを求めている。

「日本では、画家が彫刻家より華やかな一作の中心主義」といわれる美術教育の歴史があり、作品を鑑賞するよりも、なぞりや写しを重んじてきた。鑑賞は、作品の見方を味わうだけでなく、自分で批評し、新たな意味や価値を見いだすことでもある。この半ばが理想です。でも、この半ばが理想です。でも、この半ばが理想です。

「ものの見方の更新は、世界を見るセンスを増やすことであります。それは他者への共感につながり、世界との関係性を養えます。」

神野准教授は、知能や技能の習得を重視する「美術を教える教育」から、作品鑑賞など「創作」だけでは足りない美術活動を通じて、他にも生かせる能力を身に付ける「芸術的・教育的」への転換の必要性を訴える。

「鑑賞は従来、学習指導要領で学習領域の一つだ。だが、実際の現場でも同士の自分の作品について意見を言い合うだけのケースもあり、「教室内の人間関係が反映され、本

「神野准教授は芸術教育やアーティストと連携し、小中学生の鑑賞プログラムなどを展開している。中でも「アート・リサーチ」が好評で、アート・リサーチを通して、作品を見た際の「感性」を感じたことを、生徒たちに伝え、興味のある活動（ワークショップ）を企画している。また、アート・リサーチを通じて、作品を見た際の「感性」を感じたことを、生徒たちに伝え、興味のある活動（ワークショップ）を企画している。

SDGs(持続可能な開発目標)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



これからの社会で求められる力

ワクワクできる好きなこと

学び続ける力

やり抜く力

特別支援教育の目標:

自立と社会参加

創造性・表現
情報活用能力
当事者意識

21世紀型スキル

創造性
課題解決力
批判的思考力
コミュニケーションと
コラボレーション

SAMRモデル



参考図書



HICK UP 開講期間：2019/03/26 ~ 2019/05/27

読み書き困難への支援入門 子どもの味方の「教え方」

認定NPO法人 エッジ
藤堂 栄子

受講にはFisdomへの新規登録が必要です



学習目標

発達障害の中でも、読み書きに関する困難は、気づかれにくく、本人の怠慢・努力不足であると誤解されがちである。本入門講座では、こうした指導にあたる者の心構えを学び、読み書き障害の定義や困難さの実態、その背景について学ぶとともに、望ましい支援のあり方を理解することを目的としている。

特別支援教育 **ONE** テーマブック

ICT活用

新しいはじめての一步

青山新吾
編集代表

郡司竜平 著



発達障害のある子の学びを深める

教材・教具・ ICTの 教室活用アイデア

金森 克浩・梅田 真理・坂井 聡・富永 大悟 著

鉛筆の
持ち方支援ができる
「ダブルクリップ」から
授業記録に役立つ
「レコーダー」まで

障害者差別解消法や
インクルーシブ教育システムなど
支援が求められる時代の
ちょっとサポート

LDの 「定義」を 再考する

(主催)——一般社団法人 日本LD学会
(編集)——小眞 悠・村山光子・小笠原哲史

Learning
Disabilities

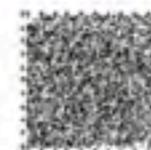
上野一孝
高橋 知哉
藤 聡
竹田 賢一
宮本 慎也
山中ともえ
海津 豊希子
辻藤 武夫
西岡 有香
田中 裕一
宮崎 芳子
柴田 文子
高橋 知哉
松 敦
小笠原 哲史
尾崎 敏正

情報通信の活用と社会参加の促進に向けて

障害者のICTを活用した社会参加

情報通信

事例集



特別支援教育サポートBOOKS

タブレットPCを 学習サポートに 使うための Q&A

河野俊寛 著

インターネットにつながら
ないと使えない？

指先が不器用なときは
どうしたらいい？

学習に使えるアプリの
見つけ方は？

いつ頃から使い始めれば
いいの？

入試に向けて使うときに
気をつけることは？

これで解決！
学習サポート
ツールとしての
活用法

明治図書

コミュニケーションを 豊かにするための ICT活用

～〈続〉肢体不自由児のためのタブレットPCの活用～

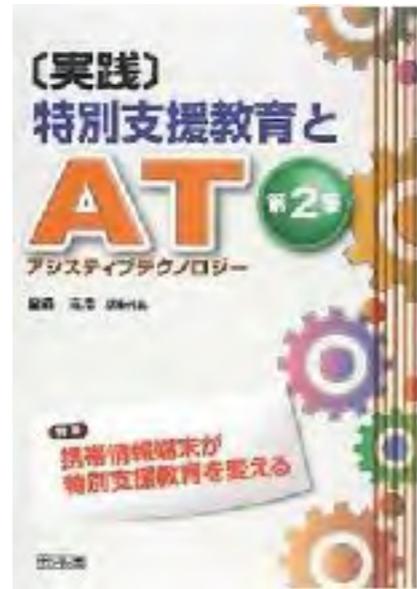


特別支援教育とAT(アシスティブテクノロジー)

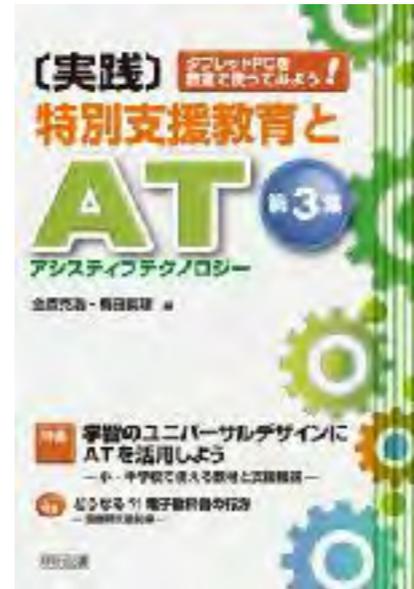
国立特別支援教育総合研究所 金森 克浩



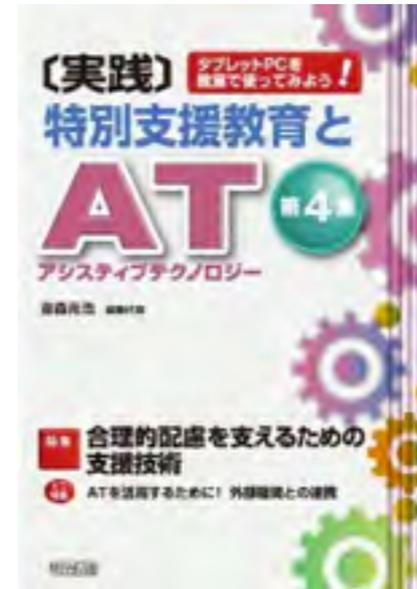
「概論・入門編」



「特別支援教育」



「学習のUD」



「合理的配慮」



「視覚支援」



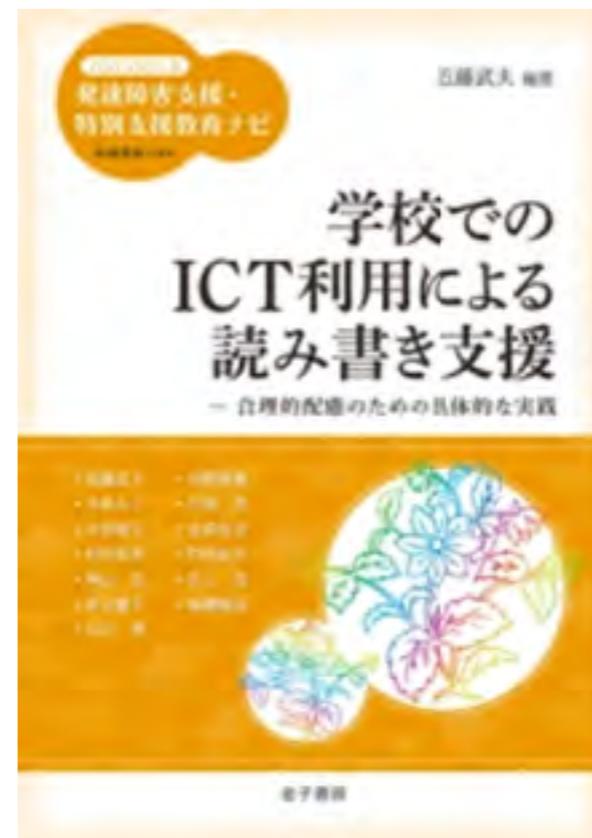
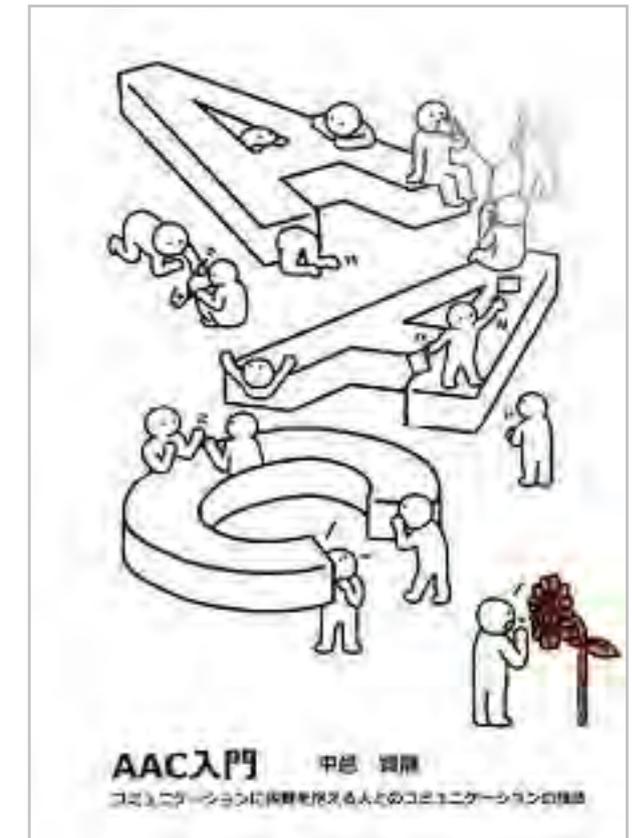
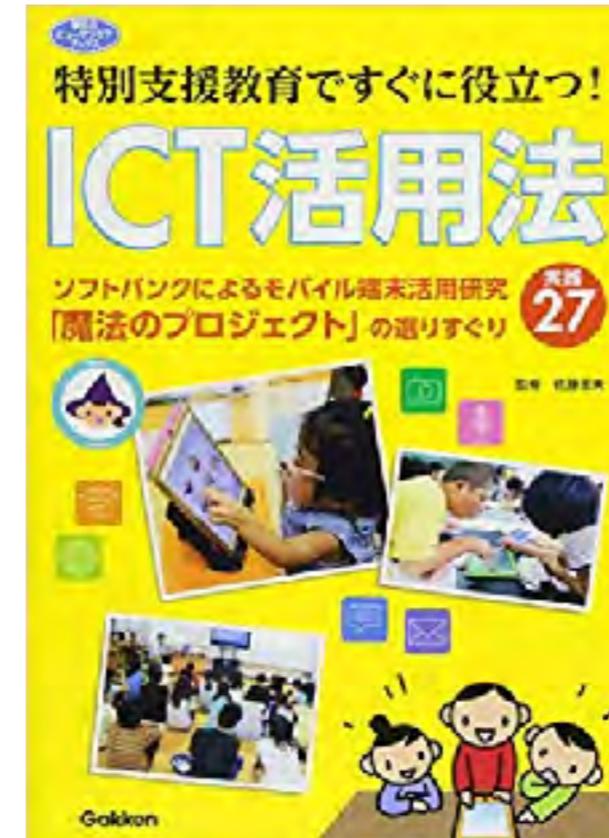
「AAC再入門」



「知的障害」

各号のキーワード

東京大学先端科学技術研究センター 関係



魔法プロジェクト 研究成果

東京大学先端科学技術研究センターとソフトバンクグループは、携帯電話・スマートフォン等の情報端末の活用が障害を持つ子どもたちの生活や学習支援に役立つことを目指し2009年6月から「あきちゃんの魔法のポケットプロジェクト」をスタートしました。



あきちゃんの魔法の
ポケット



魔法のふでばこ
2011



魔法のじゅうたん
2012



魔法のランプ
2013



魔法のワンド
2014



魔法の宿題
2015



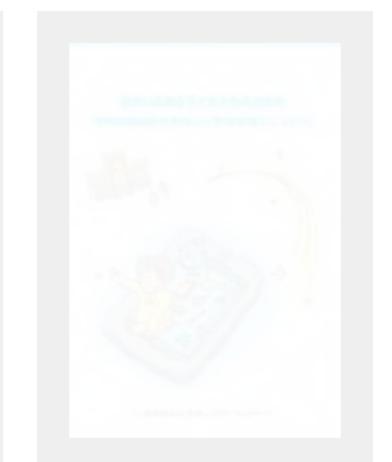
魔法の種
2016



魔法の言葉
2017



魔法のダイアリー
2018



魔法のWallet
2019

文部科学省

発達障害のある子供たちのための ICT活用ハンドブック



特別支援学級編



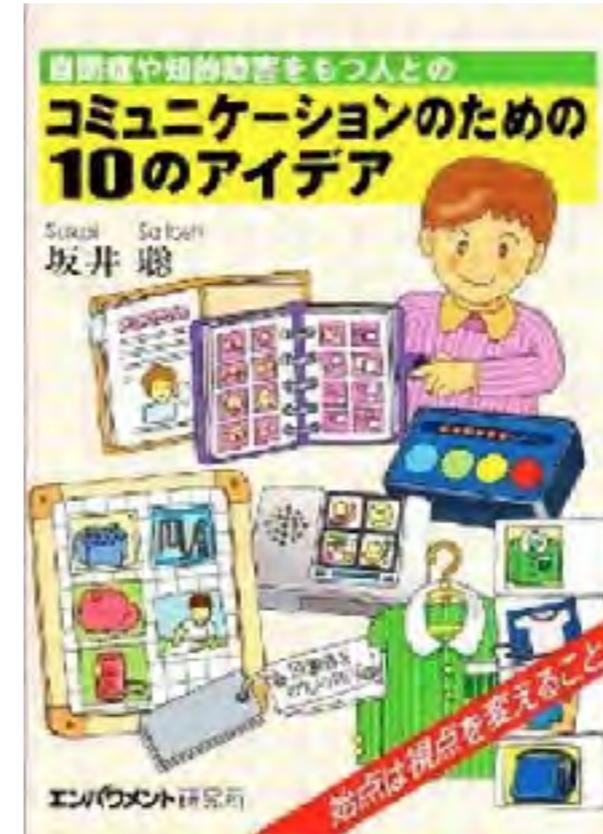
通常の学級編



通級指導教室編

香川大学教授

坂井 聡



EDGE



学習支援員のためのガイドブック

特別支援教育 実践テキスト [第2版]



特別支援教育実践テキスト

能力を引き出し伸ばす支援

通常学級における発達障害の
児童生徒への支援ガイドブック



ATDS

Assistive Technology Dissemination Society

NPO法人支援機器普及促進協会

<http://npo-atds.org>

<https://www.facebook.com/takamatsu.takashi>